

令和7年度 江戸川区立第三葛西小学校 学校関係者評価報告書(学校経営計画・学校関係者評価シート)

学校教育目標	智・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指し、「(智(ちえ))深く考え進んで実行する子・(仁(おもいやり))思いやりのある子・(勇(ゆうき))明るくたくましい子」を本校の教育目標とする。	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○児童が集団生活の中で自分の良さを発揮し、意欲的に活動できる学校 ○教職員が教育のプロとして互いに高め合い、協働して教育活動を進める学校 ○家庭・地域の教育力を生かし、地域とともに児童を育む開かれた学校
前年度までの本校の現状	成果 ○校内研究を中心とした授業改善を継続的に進めることができ、様々な学力調査においても、概ね順調な結果を得られた。児童の意識調査では「すすんで学習に取り組んでいる」割合が、引き続き高い状態を維持することができた。 ○ICTの活用により、多様な授業展開で学びが一層充実したり、保護者との連携も連絡・配信アプリで効率化されたりしたことで、教職員の業務軽減にもつながった。	課題	○読書科に係る教育活動の充実 ○個に応じた支援ができる支援体制の構築や環境整備の推進と、子供を中心とした保護者との連携の強化。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己(学校)評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得	・3～6学年の算数少人数指導、習熟度別指導の実施 ・江戸川つ子studyweek!を中心に、ドリルパークの活用 ・よむYOMUワークシート ・EDOスク外部講師との連携	・児童への意識調査結果で、80%以上が、すすんで学習していると肯定的な回答 ・江戸川区学力調査で、70%以上の児童が正答率70%	90	102	A	取組は計画通りに進められている。教員は児童の意識が向上するよう、励ましの声掛けを行っている。国語の力が伸びている反面、算数の力の伸びが弱いので、対策について模索している。	B	自分ですすんで学習しているという意識をもてる子供が8割を超えているのはよい。一定数苦手意識を持つ子はいると思うが、9割に近づけて行ってほしい。引き続き、12月の学力調査に向けて、子供たちがしっかりと力をつけていくようにしてほしい。	A	年間計画を基に各指導を進めることができた。児童の意識調査では、すすんで学習をしていると回答した児童を10%増やすことができた。さらに児童の学習意欲を高め、基礎・基本の内容を確実に習得できるよう努めている。	A	ICTの活用が進み、教育活動に円滑に生かされている点は評価できる。Teamsを利用した連絡方法も有効である一方、家庭においては家庭学習の内容や量が見えにくくなってきている。保護者が学習の様子を把握し、関わることでできる仕組みがあるとい。	今後は、学年の発達段階に応じた適切な活用を進めるとともに、教員間でICT活用の力量差が生じないように、体制づくりを進めていく。
	○教員の専門性向上	・全学年の校内研究及び協議会の実施 ・OJTの充実 ・高学年の教科担任制の実施	・児童への意識調査結果で、80%以上が、授業がよくわかると肯定的な回答	111	113	A	校内研究は、昨年度に引き続き国語を実施し、継続的に行っている指導が徐々に根付いてきた。主任教諭を中心としたOJTチームを編制し、計画的に研修を行っている。	A	教科担任制は、多くの先生と関わることができることから、相談できる大人の数が増え、授業以外でも効果が期待できる。先生方にとっても教材研究を十分にできると思っているので、推進してほしい。	A	校内研究は授業改善に向け共通理解が深まり、教員全体の指導力向上につながった。教員相互の学び合いが促進され、若手教員を中心に実践的な指導力の向上が見られた。	A	教員の仕事の中心は授業であり、授業が充実し魅力的であれば、子供たちは主体的に取り組む、楽しむことができると考える。今後も授業力向上に向けた研修に努めてほしい。	校内研究をはじめ、実践力をつけられる研修体制をさらに整備し、教員の質の一層の向上に努める。
	○読書科のさらなる充実	・読書週間の充実 ・公共図書館巡回職員による授業の実施 ・学校図書館の環境整備、蔵書の充実 ・学期1回以上の図書ボランティアおよび教員による読み聞かせ	・児童への意識調査結果で、80%以上が、すすんで読書をしていると肯定的な回答	78	85	B	児童の委員会活動でも読書に関する取り組みを推進し、図書室利用は増加傾向にある。読み聞かせは計画通りに進んでおり、ボランティアも連携して行っている。	B	インターネットを通じた情報収集もよいが、小学校では、活字を通して学びを進めてほしい。先生方が選書していただいていると聞いているが、児童にアンケート調査を実施するなど子供たちの声も取り入れ、蔵書の充実も図ってほしい。	B	読書週間には、図書委員が主体的にイベントを企画し、図書室利用を促進できた。各教科の学習内容に関連する図書や、調べ学習に活用できる資料、読み聞かせや朝読書に適した図書を重点的に導入し、蔵書が充実した。	A	紙媒体を通して学び、知り、慣れ親しむことは読みに大切である。「調べる本」と「読む本」を目的別に捉え、蔵書をさらに充実させられるとよい。図書ボランティアの活動についても、今後も継続して取り組んでほしい。	読み聞かせを通じて新たな世界と出会う機会も生まれることから、蔵書の充実、読み聞かせ回数の確保に努めていく。
体力向上	○運動意欲の向上	・年3回のなわ跳びチャレンジウィーク ・持久走記録会と持久走月間 ・体育授業での多様な動きを取り入れた活動	・児童への意識調査結果で、80%以上が体が動かすのが楽しいと肯定的な回答	103	103	A	体育朝会の実際の動きを見せたり、運動のコツがわかる動画を全校で共有したりするなどして、苦手意識がある児童の抵抗感をなくしている。	B	昨年同様に、体力テストの結果を分析し、強みを伸ばし、弱点を克服できるようにしてほしい。その中で、重点項目を見極め、力を伸ばせるよう対応してくれることを期待する。	A	持久力を中心に力を伸ばせるよう努め、各取組でも意欲的な児童の姿があった。一定数苦手意識の強い児童がいるので、挑戦しようとする意欲の向上から対策していく。	A	夏季は暑さが厳しく、屋外で遊ぶことが難しい日が増え、外で活動する機会が減少している。このような状況でも、活動が可能な時期には十分に体を動かし、体力の向上を図ってほしい。	各取組や日常の運動について、適切な時期に、ねらいを明確にし、安全面に十分配慮しながら取り組んでいく。
	○健康の増進	・健康な心と体を育む、保健指導や給食指導、食育指導、食育体験 ・給食後の歯磨きタイムの設定	・児童への意識調査結果で、80%以上が健康な生活ができるようにしていると肯定的な回答	105	107	A	歯磨きの取組は全学級で実施し、家庭の意識も高く、虫歯の罹患率は低い。低中学年を中心に食育体験を実施し、給食を軸とした食育指導を行っている。	B	できたことを褒め、失敗も認めあげ、自己肯定感の育成に努めたり、子供をよく見て、いじめや孤立の予防をしたりし、心の健康を維持できるようにしてほしい。タブレットやスマホ・ゲームなどの利用で、視力に関する不安がある。	A	手洗いうがい、換気扇の励行や、アウトメディア週間の実施など、適切な時期に適切な指導を行えた。児童も健康について考える機会となり、意識の向上につながった。	A	インフルエンザなどの流行性疾患については、一定程度やむを得ない。一方、SNSや動画配信サイトの過度な利用による視力低下が懸念されるため、アウトメディアの取組は今後も継続して行くとよい。	現在の取組を継続していく。また、フッ化物洗口の導入もあり、さらに口腔内の衛生について意識向上を図る。
教育の推進 共生社会の 実現に向けた	○特別支援学級との交流及び共同学習の実施・充実	・各教科の学習活動、運動会・校外学習等の行事やきょうだい学級活動等の特別活動における取組 ・担任同士との交換授業	・毎月1回以上、同学年担任同士が打合せを行い、特別支援コーディネーターが実施状況や進行状況を確認	70	85	B	各行事や学習に関わる交流は計画的に行われ、日常生活の中でも自然な形で交流できている。教員の交換授業については、2学期中に全学級で実施予定。	B	本校は特別支援学級があるので、共生社会を生き延びける児童の育成に努めてほしい。出張授業は昨年に引き続き実施され、計画的で良いと思う。2年目になるので、先生方や子供たちの意識の変容について聞いてみたい。	B	共同学習の実施については、概ね計画どおり実行できたものの、充実度においては学年ごとに取組の差が見られた。今後は、児童が協働して学ぶ活動や学年間・学期間の交流を深める取組を検討していく必要がある。	A	特別支援学級との交流については、無理に実施する必要はないと考える。休み時間に一緒に遊んだり、行事を共に行ったりすることで、自然に共生を学べる形が望ましい。	日常的な交流を大切にしつつ、学習活動の中でも交流の機会を意図的に設けていく。また、交流を通して、児童間だけでなく教員の理解促進につなげていく。
	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用 ・日本語指導員や日本語教室との連携	・毎月1回以上、管理職や通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施	70	100	B	特別支援教室関係者の打ち合わせは、月1回計画的に行われた。担任と巡回教員の連携を定期的に行えるようにしていく必要がある。	B	個に応じた指導や対応のため、計画的に打合せが実施されているのがよい。一人の児童に対し、先生や保護者など関わる人数が多くなるので、共通理解の下で指導を進めていってほしい。	A	担当教員と管理職との情報共有は円滑に行うことができた。一方、指導教員と担任との連携には課題が見られた。今後は専門員を効果的に活用し、よりよい支援体制づくりを進めていく。	A	学校としてできる取組は十分に行っている。情緒の固定学級や日本語指導学級の増設などを、区として制度化できれば、より一層支援を推進できるのではないかと。	校内の支援教育委員会を一層充実させ、個別の指導計画により実行性を高める。
不登校・いじめ対応の充	○不登校の組織的な対応	・日常的な観察や情報共有 ・エンカレッジルームの充実 ・SCやSSWの活用 ・関係諸機関との連携 ・L-Gateの活用	・不登校児童の関係諸機関との連携100%	89	89	B	エンカレッジサポーターを活用することで、不登校対策の支援を充実させることができ、対象数や出現率は大幅に改善している。必要に応じて、関係諸機関と連携し、対応を図っている。	A	昨今の不登校数や出現率を聞いていると、少ないことに驚いた。外部人材の活用や組織的な取組などが奏功しているのだと思う。個々のニーズに合わせて、柔軟な対応をしていってほしい。	B	生活指導主幹を中心として、組織的な取組を充実させることができた。登校が難しい児童一人一人の状況や背景を丁寧に把握し、関係機関や保護者と連携し丁寧に、適切な支援の在り方について継続的に検討していく。	A	総合的に見て、不登校の発生率は低く、必要な対応は概ね適切に行われている。対応は多様化している様子があるので、引き続き丁寧な対応をしていってほしい。	現状の実践を維持していく。児童の小さな変化に目を向け、保護者とも連携して、元気に学校に登校できるよう支援していく。
	○いじめの未然防止、早期発見、早期対応	・年3回以上、いじめに関する授業の実施 ・週1回の、全教員での児童の情報共有 ・学校いじめ対策委員会の定期的な開催	・児童への意識調査結果で、85%以上が学校が安心できる場所と肯定的な回答	101	98	A	児童への授業内外において、継続的に指導を行っている。各情報はデータ化して共有を図れており、蓄積もされてきた。今後もデータを活用しながら、未然防止・早期発見に努めていく。	B	85%以上の子供が安心しているとはいえ、全ての子供が安心できると回答できるよう、力を尽くしていってほしい。暴力や暴言によるいじめは以前よりあるとは思いますが、SNSをはじめとした、ネットトラブル対応の指導にも注力していってほしい。	B	一定の水準を維持できてはいるものの、若干の減少傾向については課題が残った。教職員で情報を確実に共有し、些細な言動や小さな変化も見逃さず、いじめの芽を早期に把握し適切に対応できる体制を築いていく。	A	現状は問題ないが、若手教員において、いじめの発生が自身の評価の低下につながるなどの認識をもち、事案が表面化しにくくなること懸念される。速やかに報告できる体制の整備・充実を図ってほしい。	現在の取組を継続し、未然防止に努める。また、いじめが発生した際に、速やかに情報を共有し、組織的に対応できるように校内体制を整える。
学校の開かれた地域社会の実現	○学校ホームページの充実	・教育活動の様子を、各学級2回以上発信 ・配布文書の配信	・学校評価(保護者)の学校の情報発信に関する項目のA評価55%以上	-	80	-	計画通り日々の教育活動の様子を発信できている。直近5カ月間のアクセス数は昨年比107%で、関心をもって見ていただいていると考えている。	-	学校日記で日々の子供たちの様子がよく分かってよい。配布物関連もよくまとまっているので、調査結果や読書科に関して、さらに充実できるとよい。	B	年間を通じ、教育活動全体の様子をバランスよく発信でき、発信文書も掲載できた。A評価は44%にとどまったが、B評価を加えると92%となり、今後も継続して評価を上げていく。	A	更新頻度が非常に高く、内容も充実しており、情報が可視化されている点は評価できる。今後も継続して取り組むことが望ましい。	今年度同様の頻度で更新をしていく予定である。日常の教育活動の様子以外のページについても内容を再検討し、発信を強められるよう努める。
	○学校関係者評価の充実	・教育活動の改善や充実につながる評価項目の精査 ・評価や分析結果の公表	・学校関係者評価のA評価80%以上 ・学校評価(保護者)の回収率60%以上	-	93	-	今年度の教育活動の計画に応じて、項目を変更している。ホームページでの公開やデータ配信など、公表についても計画で来ている。	-	計画や前年度からの変更点などを聞き、柔軟かつ前向きに取り組んでいる。ホームページでの公開やデータ配信など、公表についても計画で来ている。	A	学校評価(保護者)の回収率は56%で、インターネット上の回収を考えると一定の評価ができる。学校関係者評価については、さらなる向上を目指す。	A	学校評価は、オンラインによる回答方式が有効であり、今後も継続すべきである。配布文書は、紙で配布されるものとデータ配信されるものの区別が不明瞭ではないかと。	外部からでは把握しづらい点や、数値で評価しづらい点があることから、項目について精査していく。
教育の特色ある展開	○奉仕活動の実施	・区の取組に参加し、地域清掃を実施 ・教地内の環境整備 ・6年生の卒業時活動	・児童への意識調査結果で、前向きな回答80%以上	112	-	A	5月の地域清掃では、90%の児童が前向きな回答をした。広い地域で実施したいとの声もあり、活動内容について精査し、検討していく。	A	子供が地域に目を向けるようになる取り組みはよい。PTAの活動も含め、地域と連携してほしい。地域に誇りを持ち、地域とともに成長する子供たちを育てていってほしい。	B	11月の音楽会前に体育館前の入口周辺の清掃や、校庭の南側の環境整備を行った。活動に興味をもたせられたものの、時間の確保について検討の余地が残った。	B	環境をよくする運動に参加する学校が少ない中で、意義のある取組であった。無理に地域へ出向かなくとも、自校をきれいにしようとする意識が高まるだけでも十分であり、今後も継続を望む。	環境整備活動や奉仕活動を教育活動と結びつけ、単発ではなく意義のある取組にしていこう。
	○ライフワークバランスの実現に向けた職場環境整備	・週に1度の定時退勤日 ・教育活動及び校務に係る支援人材の積極的な活用 ・校務の見直し、再構築	・学校評価(教員)の働き方改革推進に関する項目のA評価80%以上	45	53	D	定時退勤日(リフレッシュデー)も定着し、勤務時間に対する意識が向上している。昨年度と比較し、教職員の時間外労働時間の1ヶ月平均時間は、10時間程度減っている。	B	A評価は36%だが、肯定意見は96%のことなので、順調なのではないか。校内での努力を続けてもらい、教育の質は落とさずとなく、全力で子供たちに向き合えるよう、さらなる働き方改革を推進していけるとよい。	C	A評価は43%となり、肯定意見は90%以上を維持している。会計年度任用職員の活用が進んでおり、業務内容の精選や効率的な業務管理を進めていく。	B	組織としてできる取組は行っている。次の段階としては個人の意識の向上が課題となるため、一人一人の意識を高めることに注力してほしい。	削減できた時間を、授業の準備時間や児童と向き合う時間に充てられるよう、さらなる環境整備を進める。